

令和6年度

知的財産包括支援事業 —事例集—



自社の技術、ノウハウ、ブランド 守れていますか？



あなたに合った知財の勉強会を開催できます！

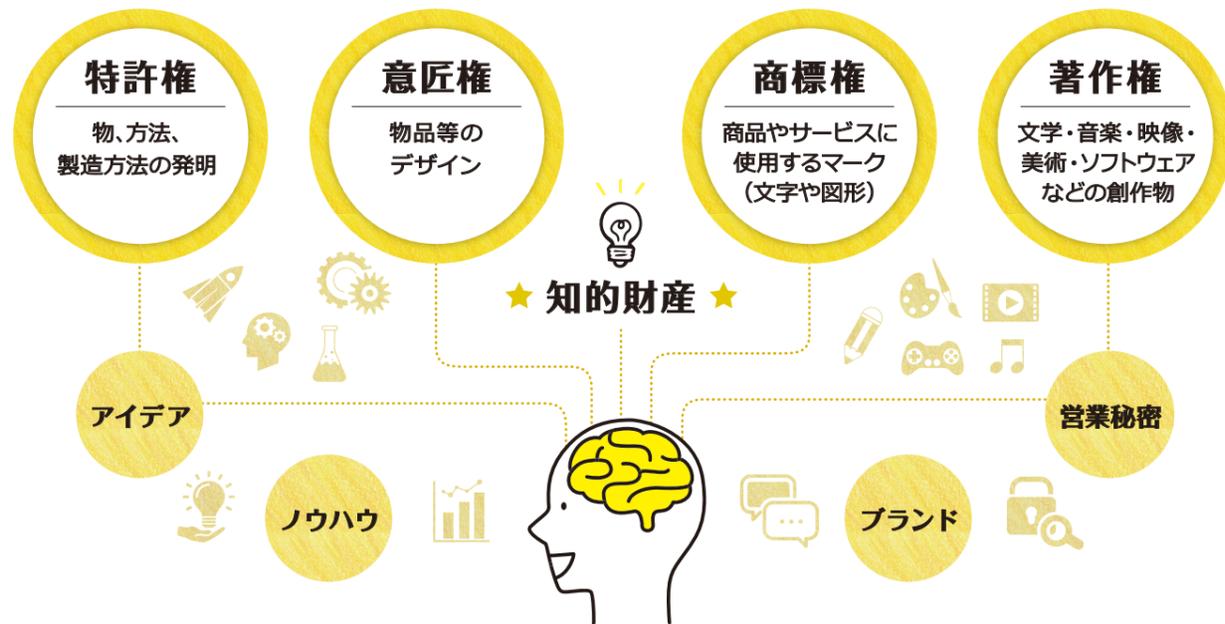
事業概要

県内業界団体やスタートアップ企業が抱える知的財産に関する課題を解決に導き、高校や大学等の研究・教職員や学生等の知的財産に対する関心や知識を高めるため、弁理士やブランディングコンサルタント等の専門家による助言・講義等を行います。

- ✓ 上限 4 回まで継続的な助言・講義を受けられます
- ✓ 申請者の費用負担はありません
- ※別途、助言・講義を受けるための会議室・教室等をご用意いただく場合があります

知的財産とは…

知的財産とは、人のアイデアや創作物から生まれる財産のことです。
特許・意匠・商標・著作権などの「知的財産権」は法律で守られ、企業の技術やブランドを保護しています。
その他、企業のノウハウ、ブランド、営業秘密なども重要な知的財産です。
また、近年は個人や企業の枠を越え、地域ブランドなど知的財産活用の幅が広がっています。



なぜ知的財産が必要なのか？



知的財産を適切に管理・活用することで、他社との差別化や競争力、信用力の強化につながります。知的財産と聞くと、「難しそう」「大企業のためのもの」と考える中小企業経営者は少なくありません。しかし、知的財産をうまく活用することで、経営にとってよい結果を生むことが可能となります。

こんな方におすすめ



- 知的財産の基本について知りたい
- 自社のブランド、商品を守るため商標について勉強したい
- 地域ブランドを確立して、商標登録・商品開発などを考えたい
- 商品パッケージデザインやネーミング等について学びたい
- 共同研究等を推進するため、知財の権利化や管理上の注意事項を確認したい
- 特許等の知財を活用した事業戦略を検討したい

支援までの流れ



《支援例》

ご要望の例	支援内容例	専門家
知的財産の基本について知りたい	● 特許、商標、意匠などの基礎講義 ● 知財を活用したビジネス事例の紹介	弁理士 企業経営者
地域ブランドを確立して、商標登録・商品開発などを考えたい	● 商標などの基礎講義 ● 地域団体商標出願等に関する助言 ● 商品のブランディングに関する助言	弁理士 ブランディング コンサルタント
商品パッケージデザインやネーミング等について学びたい	● 商標などの基礎講義 ● 商品企画(コンセプトやネーミング等)のワークショップ	ブランディング コンサルタント
共同研究等を推進するため、知財の権利化や管理上の注意事項を確認したい	● 特許、商標、意匠などの基礎講義 ● 個別の実務状況等に対する助言	弁理士
特許等の知財を活用した事業戦略を検討したい	● 特許などの基礎講義 ● 知財検索サービスでの先行調査 ● 特許マップ等の作成及び分析方法	弁理士

R6年度 活用実績

- 企業・団体数 …… 8社 (受講者数: 182名)
- 教育・研究機関数 … 7校 (受講者数: 686名)
- 合計 …… 15件

企業・団体

8社

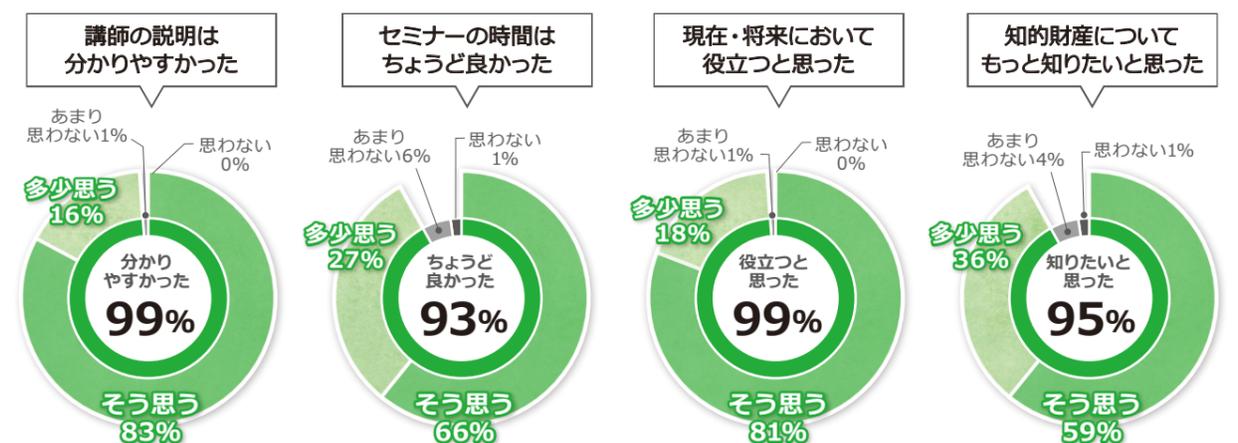
活用実績

教育・研究機関

7校

活用実績

アンケート結果(受講者全体)



企業・団体 事例 1 **共同研究時の知的財産の取り扱いについて学びたい**
イノベーションサポート沖縄株式会社

主な参加者 インキュベーション施設の入居企業 実施方法 リアル開催

実施目的 沖縄ライフサイエンス研究センターおよび近隣のインキュベーション施設に入居する企業等が他の研究機関との連携を図る際に注意する点を把握する

実施内容 ●共同研究時の知的財産の取り扱いの留意点について
●共同研究を行うにあたり締結する「秘密保持契約書」「共同研究契約書」「共同出願契約書」について、実際のトラブル事例を例示しながら解説

専門家 弁理士 大久保 秀人(沖縄国際特許商標事務所)



支援を活用した感想

- 共同研究実施前に検討すべき事を知る事ができて良かった。事例紹介が多く分かりやすかった。
- 今後、沖縄ライフサイエンス研究センター等のインキュベーション施設に入居する企業と他の研究機関とが円滑に共同研究が実施できるようになることが期待される。



企業・団体 事例 2 **スタートアップ企業向け知的財産を活用した事業戦略について学びたい**
沖縄セルラー電話株式会社(OKINAWA Startup Program 事務局)

主な参加者 プログラム採択企業、プログラム主催各企業 実施方法 リアル開催

実施目的 沖縄県内企業8社で主催しているオキナワスタートアッププログラムにおいて、知的財産の知識を深めることで、主催企業および採択企業の協業促進や、さらなる成長を支援したい

実施内容 「企業を運営する上で知っておかなければならない知財制度の基礎」をテーマに知的財産の基本(特許、意匠、商標など)、知財制度の活用方法、沖縄に関連する商標トラブルの事例、知財戦略の課題について、参加者と意見交換を交え実施

専門家 弁理士 柳野 嘉秀(柳野国際特許事務所)



支援を活用した感想

- 自社での知財戦略を考える上で、出願のタイミングや費用対効果を踏まえた意思決定がいかに重要であるかを改めて学んだ。
- 参加者から具体的な質問が寄せられ、知財専門家のアドバイスを直接得る機会となった。
- 知的財産制度の基本を学ぶだけでなく、今後のビジネス運営において具体的な行動を起こすきっかけとなった。



企業・団体 事例 3 **地域商品の保護やブランド化、商標について学びたい**
宮古島商工会議所

主な参加者 製造業部会の会員事業者 実施方法 リアル開催

実施目的 会員相互の情報交換や各自の研鑽、地域資源を活かした特産品開発や地産地消の推進などに取り組んでおり、商標や地域商品の保護、ブランド化について学びたい

実施内容 「地域団体商標・地理的表示 GI ~違いと活用~」と題し、地域団体商標制度の基本的な内容を説明。宮古島の特産品(宮古そば、メロンなど)における商標・GI制度の活用可能性や、同じネーミングで出願されている場合の対処などについて意見交換。

専門家 弁理士 大久保 秀人(沖縄国際特許商標事務所)



支援を活用した感想

- 地域ブランドや知的財産制度について、実務的で具体的な学びを得ることができた。
- 自社の商品と同じネーミングで出願されているケースへの対処方法や、今後の出願可能性について、直接アドバイスをいただけたことが大変有意義だった。



企業・団体 事例 4 **知的財産を活用した商品開発、差別化について学びたい**
沖縄県食品産業協議会

主な参加者 会員企業 実施方法 リアル開催(一部専門家はWEB参加)

実施目的 知的財産権の知識を深めてもらい、知的財産を活用した新たな商品開発、他社との差別化、市場の開拓、高付加価値化、イノベーション創出の一助としたい

実施内容 ●第一部: 知的財産の基礎知識及び県内事例
特許、商標、意匠に関する基本事項を説明。県内事例を交えながら知的財産の視点から考えた企業価値やブランディングの重要性について説明
●第二部: 知的財産を活用したプロモーション、マーケティング事例紹介
県外のナショナルブランド(アサヒ「生ジョッキ缶」「未来のレモンサワー」)を参考にブランディングに活かす意匠の活用法、長期ブランド化のための段階的な権利化戦略について説明

専門家 弁理士 西平 守秀(福島特許事務所)
弁理士 石川 克司(ナビジョン国際特許事務所)
弁理士 春名 真徳(ナビジョン国際特許事務所)



支援を活用した感想

- 知財の基礎について県内事例を交えながらお伝え頂いたことで、知的財産リテラシーの向上に繋がった。
- 知財ミックス戦略では、知財を活用した商品開発について参加者の関心を高める事が出来た。



企業・団体 事例 5 **企業相談対応時に役立つ知的財産に関する知識を学びたい**
 沖縄県信用保証協会

主な参加者 職員(企業支援担当) 実施方法 リアル開催

実施目的 知的財産について学び、創業時の支援、経営支援における知識を学ぶ

実施内容

- 経営相談対応に役立つ「知的財産の基礎知識」と題し、特許権、意匠権、商標権、著作権、営業秘密に関する基本的な事項と各項目における企業へのアドバイスポイントを説明
- 特許情報プラットフォーム(J-PlatPat)を活用した知財の検索、INPIT沖縄県知財総合支援窓口の活用方法を説明

専門家 弁理士 松本 浩一郎(IP Valuation 特許事務所)



支援を活用した感想

- 特許、意匠、商標等の権利の説明を受け、注意すべき点や身近にある企業の権利の事例の情報を知ることができ役に立った。
- 相談を受けている企業に対しINPIT沖縄県知財総合支援窓口の紹介を行い、協会職員が同行した上で相談対応など支援を行った。



教育・研究機関 事例 1 **教職員への研修を行いたい**
 沖縄県立芸術大学

主な参加者 教職員 実施方法 オンライン

実施目的 企業や試験研究機関等との共同研究を積極的に進めるため、教職員を対象に知的財産(著作権)に関する理解を深めたい

実施内容

- 著作権等の基礎、著作権侵害、大学職員として知っておきたいこと等について
- 知的財産権に関して確認したい事項の事前アンケートを取ったうえで、「著作物の模倣」「著作物の引用」などに関する解説を行った

専門家 弁理士 城田 晴栄(株式会社ループホール)



支援を活用した感想

- 事前アンケートの結果を講義に活用することにより、芸術大学ならではの実務で役立つ有意義な研修となった。
- 教職員からの事前質問の内容は、教育・学生指導・研究・論文・入試・生成AIに関するものなど多岐に渡り、改めて芸術大学と知的財産権には深い繋がりがあつたことを認識した。



教育・研究機関 事例 2 **コンテストに向けて専門家から実技指導を受けたい**
 沖縄県立沖縄工業高等学校

主な参加者 学生 実施方法 オンライン及びリアル開催(複数回実施)

実施目的 パテントコンテスト、デザインパテントコンテスト応募への取り組みを行う中で、特許や意匠に係るアイデアの創造、公知技術検索の知識を得る

実施内容

- パテントコンテスト、デザインパテントコンテストに向けた生徒考案内容及び作品、応募書類についての助言
- 「現在考えているアイデアを更に工夫し、独自性を出せるようにする」、「現アイデアに対して、なぜそのような発想に至ったのか」といった各生徒への具体的な助言

専門家 弁理士 阿部 伸一(BS 国際特許事務所)



支援を活用した感想

- 教師側も考えていないような発想や独自性のアドバイスをいただくことができ、生徒だけでなく、職員も勉強になった。
- 生徒のやる気を引き出せる声掛けもして貰えたことは、とても有難い。



教育・研究機関 事例 3 **商品のネーミングやパッケージなどの商品デザインについて学びたい**
 沖縄県立中部農林高等学校

主な参加者 学生 実施方法 リアル開催

実施目的 商品開発に必要な知識を学び、食品関連産業に従事できる能力と態度を育成する

実施内容

- 商品のネーミングやパッケージなどの商品デザインについて、写真や実物を用いた講義
- 実際に販売されている商品のデザイン制作の過程や作り方について説明
- サンドウィッチを題材に商品開発のワークショップを行い、商品のコンセプトやデザインを考え、各チームでプレゼンテーションを実施

専門家 プランニングコーディネーター 中村 美樹(クリエイティブファクトリー・パパラギ)



支援を活用した感想

- 商品デザイン、マーケティング、PRを体験することで、商品開発により実践的に取り組むことが期待できる。また、具体的な商品開発の話や企業との取り組みの話などを聞くことで、職業観の育成にも繋がった。



【令和6年度】
知的財産包括支援事業 事例集

問い合わせ先



〒901-0152 沖縄県那覇市小祿1831番地1
(沖縄産業支援センター4階 401)

TEL:098-859-6239

E-mail:chizai@okinawa-ric.or.jp

Website : <https://okinawa-ric.jp/>